

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	高級レストラン（専務）	・来年にかけて今後も鹿児島、熊本、福岡へ人の流れが増える。売上も少しずつ上がっており、前年を上回って推移している。今後もこの状況が続く。
		一般レストラン（経営者）	・クリスマスや正月がくると、今まで金を使わなかった人たちが、今年に関しては金をたくさん使う。以前、火山の噴火の影響があったときもそうだったが、年末年始は応援しようとか、元気を出そうということで客は金をかなり使っていた様子があった。今年も景気が若干ではあるが良くなる。
		都市型ホテル（総支配人）	・東日本大震災の影響もなくなり、激減していた来客数も順調に伸びている。売上及び稼働率は前年を上回る結果となった。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・これから歳末商戦に入り、単価の高い衣料品が売れる時期であり、やや良くなる。
		商店街（代表者）	・40周年キャンペーンを催すため、客のリピーターが期待できる。
		商店街（代表者）	・節電意識の高まりにより関連の家電製品の動きがよく、客からは購買意欲が感じられる。当社のインターネット販売の売上も伸びており、今後もこの状況が続く。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・これから鍋物商材の需要が増えてくるため、販売量が増える。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・最近では催し物や祝いの際に花の注文が入り始めた。これから2、3か月後は、正月もあり、徐々に売上は伸びる。
		百貨店（営業担当）	・客の様子をみると、買物に慎重な姿勢は変わらない。しかし、高額商品をクレジットポイントセールで購入する客や、いつもよりお得な友の会入会、特典付きのクレジット新規入会の申込が好調である。また、物産催事、文化催事への来店も増加しており、購買意欲が向上している様子がみえている。新幹線や航空機利用の観光客の来店も増加している。
		百貨店（販売促進担当）	・気温も低下し重衣料などの動きが良くなる。また、お歳暮、年末に向けて来客数は増える。
		衣料品専門店（総務担当）	・競合店が閉鎖し、当社の売上はやや良くなる。このトレンドが続く。
		家電量販店（総務担当）	・節電及び省エネ関連商品の伸びが期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・来年3月決算までの追い込みで、客の来店が多くなり、にぎわってくる。
		乗用車販売店（総務担当）	・年末に新型車の発売が開始となり、販売台数は伸びる。エコカー減税終了に伴う駆け込み需要も重なり、会社全体の売上、利益は共に前年比で増加する。
		乗用車販売店（販売担当）	・今回の新型車両は客にかなり受け入れられており、需要は当分続く。2、3か月先も今の好調を維持する。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・年末にかけてコーヒーの需要が年間で最も多くなる時期であり、今年もその傾向となる。年末のお歳暮商戦に向けてギフト商品をまとめ買いする傾向もあり、来客数も寒くなるにつれどんどん増えている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・九州新幹線全線開業後、初の秋の行楽シーズンが始まり多くの観光客が見込めるため、景気はよくなる。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・県外客の流れは当地に目まぐるしい様子で増えている。それを引き留め、リピーターにするには、やはりアイデアや努力が必要である。また広い年代層をターゲットとする必要がある。
		旅行代理店（従業員）	・年末年始は海外を中心に前年を大きく上回っている。国内を含めてレジャー需要は回復している。
		通信会社（総務局）	・10月よりキャンペーンを開始し、年末に向け売上は伸長する。
		通信会社（業務担当）	・11月はスマートフォンの新商品の発売とキャンペーン開始で、販売数は更に増える。
		ゴルフ場（従業員）	・年末年始の予約の問い合わせが非常に多く、今は良い状況となっている。4年前の平成19年頃の入場者数に次いで盛り上がり、県外客が観光地を訪れ、観光地も地域自体も非常に盛り上がりつつある。地域的に非常に有意義な時期を迎えている。これがずっと続くかどうかは不透明であり、リピーターを増やすよう現場はサービスに力を入れる。

	ゴルフ場（支配人）	・11月と12月前半まではゴルフのベストシーズンであり、大型コンペや忘年コンペが例年通り入っている。天気予報によると11月は雨の日が例年に比べて多く、マイナス要因となる。
	理容室（経営者）	・11、12月は年末に近づいてくるので、客の動きは今月とは違い少し良くなる。客単価もパーマやカラーをする客が増えるため、若干良くなる。
	美容室（店長）	・2、3か月先は年末年始となるので、例年通り、少しは良くなる。
	住宅販売会社（代表）	・客の様子をみると、これから年末にかけて市場が動いていく。
変わらない	商店街（代表者）	・1月の販売量は例年下がるが、現在、需要期にもかかわらず、物が動いていない。年配の方の購買力が非常に落ちていることを実感しており、厳しい状況が続く。
	商店街（代表者）	・円高が続いており、増税も懸念され、消費が非常に落ち込んでいる。客の様子をみる限り、年末商戦に向けても期待できない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	・これから3か月先は年末商戦に入る。当地はぼんかんの販売が中心となるが、その相場を占うみかんの価格が例年の半値位に暴落している。年末もかなり厳しい状況になる。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・年末に向けて例年であれば、必ず売上が増加する時期であるが、客の様子から今後の予測が全くつかない。
	百貨店（売場主任）	・ウォームビズはクールビズのように大きな需要を喚起するまでに、客に浸透していない。
	百貨店（売場担当）	・当店は9、10月と前年比107%前後で推移しているが、大型店の市況をみても悪くない。マイナス要因が見当たらず、このままの状況で推移する。
	百貨店（業務担当）	・秋冬物の動きが良いものの、年末にかけて所得環境が改善されるわけではないため、消費意欲が向上することは期待できない。
	百貨店（営業企画担当）	・市場環境の改善する要因が見当たらない。世界的な不況や増税、年金開始期間の繰上げなどの話題で、消費環境は厳しい状況が続く。
	百貨店（企画）	・円高等、消費を取り巻く環境が相変わらず厳しいなかで、急激に好転する要素がない。現状のトレンドで推移する。
	スーパー（経営者）	・TPP等の諸問題や東日本大震災の復興の目処が立たないため、先行きに不安感がある。消費動向は改善しないまま推移する。
	スーパー（店長）	・今後お歳暮ギフトやクリスマス、年末年始など社会行事関連が続くが、今の社会状況のなかでは所得環境は変わらず、購買意欲向上にはあまり期待できない。
	スーパー（店長）	・気温に左右されるところが多いが、気温が低くなる状況もなく、今のところ伸びる要素が見当たらない。
	スーパー（店長）	・東日本大震災直後の半年前に比べると回復基調にあるが、現在報道されている増税問題や円高問題により消費を取り巻く環境は改善されない。また、電力の供給力不足から冬の暖房費を懸念する声もあり、多くの不透明な問題がある。そういった不安が今後の消費に大きく影響する。
	スーパー（総務担当）	・夏場ほど節電関連商品の動きには期待できず、ヒット商品となるような商品が今のところ見当たらない。
	スーパー（経理担当）	・消費者の節約志向は東日本大震災から一巡する春頃まで続く。
	コンビニ（経営者）	・客の様子をみても、今後明るくなる材料が見受けられない。
	衣料品専門店（店長）	・客の買物単価をみると、低単価の商品は売れず、割と単価が高い商品が売れている。婦人服の場合、低単価の商品は大型店で購入し、商品説明や自分に似合うかどうかなど接客が必要な物は単価が高くても個店で購入するといったように、購入店舗を分けている。
	衣料品専門店（店員）	・新規の客を獲得できない期間が長く続いており、売上が上向き様子がみられない。今後も厳しい状況が続く。
	その他専門店〔書籍〕（店長）	・相変わらずの円高傾向が続き、さらに、タイの洪水で日本企業が大打撃を受けており、景気回復の望みは薄い。客の様子をみても、厳しい状況が続く。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・増税懸念などの先行き不安から、身近な物への節約志向がみられる。書店では、雑誌の販売数が落ちている。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今年の灯油の小売価格は、前年と比較して大きな変化はない。仮に寒波が早く訪れれば、灯油販売の増加が期待できる。	

その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（総支配人）	・消費者は先行き不安があり、消費に力強さが感じられない。衣料品はやや上向き傾向にあるが、単価については、いまだ下落傾向にあり、今後もこの傾向は続く。
高級レストラン（経営者）	・11、12月は忘年会等が集中してくるため、繁忙期となる。今より来客数は伸びるが、例年に比べると予約の入り具合が遅い。
スナック（経営者）	・街自体が閑散としており、客の様子からも良くなる要素を感じられない。
観光ホテル（総務担当）	・東日本大震災の影響が薄れ、10月の好調さがしばらく持続する。
都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン及び一般宴会の予約状況は前年並みで推移しているが、宿泊部門は依然として動きが鈍く、前年比90%の予約状況である。
旅行代理店（企画）	・回復需要も一巡し、通常の営業状況に落ち着く。
タクシー運転手	・来月の予約状況は大変良く、行楽シーズンの予約客が良く動いている。ただ、夜の客は大変少ない。一方で、同業大手の会社が他社に客を回すということもあり、先行きは不透明である。
タクシー運転手	・ゴルフ、観光の時期であるが、タクシーの予約が少なく、客の増加が期待できない。
通信会社（企画担当）	・競合他社との一時的強力な拡大販売競争が下火となりつつあり、需要の掘り起こしの勢いが低調となる。
テーマパーク（職員）	・11月のスポーツキャンプやゴルフトーナメント、新しいレストランのオープンなど話題は多いが、10～12月でも、厳しい状況は続く。
美容室（経営者）	・年末年始は美容業界も非常に活気を呈する時であるが、昨今のお宮参りでもカジュアルなスタイルで行く傾向により、美容室の利用が減少している。年末年始の活況のある時期も普通の時期と少しも変わらない。
設計事務所（所長）	・この仕事は話が出てから3か月から半年後に結論が出る。現状ずっと良くない状態が続いているため、悪いまま推移する。
やや悪くなる	
商店街（代表者）	・客からは景気が好転する要因よりも、悪化する要因を聞く機会が多い。厳しい状況が続く。
百貨店（総務担当）	・年末商戦を迎えるにあたって、明るい見通しが全くないため、個人、法人とも支出を抑えようとする傾向が続く。
百貨店（営業担当）	・当地では口蹄疫以降、回復の兆しがみられず、外商に関しては、昨今の不安定な経済情勢のなか、高額商品の動きが非常に鈍くなっている。高価商品、一般商品共に見通しは非常に厳しい。
百貨店（営業担当）	・歳末商戦は客の層が厚くなり、売上のボリュームは大きくなる。しかしそのボリュームは、12月は前年に比べてかなり落ちると見込まれ、11、12月の歳末は非常に厳しい商戦を強いられる。
スーパー（店長）	・依然として厳しい状況が続くなか、競合店の出店計画があり、店舗周りの競争は今以上に厳しくなる。
スーパー（店長）	・天候条件などで単価が上がると途端に買い控えが発生する。客の表情も以前に比べて明るくない。購入時に安全、安心という言葉もよく聞かれる。全体的に購入に慎重な姿勢がうかがえる。
スーパー（店長）	・今と変わらない状況で推移する。米は単価が高くなってても売れているが、落ち着いている。生鮮食料品の状況をみると、青果の相場が上がっているが、売上は変わっておらず、少し厳しい状況となっている。一般食品、乾き物商品は値上げし、客単価は上がって推移している。全体では、前年並みで推移している。
スーパー（総務担当）	・東日本大震災の復興に向けた財源を増税でまかなうことが濃厚となっており、消費マインドの悪化懸念、節約ムードなど、消費行動への更なるブレーキが懸念される。生き残りをかけたし烈な競争が企業体力を更に消耗しかねず、先行きは不透明である。
コンビニ（エリア担当）	・景気は浮揚することなく、競合店出店を含めて厳しい状況が今後も続く。
コンビニ（エリア担当・店長）	・ここにきて、東日本大震災の影響が少しずつ出ている。年末年始に向けての予約やクリスマスケーキ等の季節商品があまり売れていない。
コンビニ（販売促進担当）	・歳末商戦のなかで、小麦粉や卵、イチゴ、タイの洪水による砂糖の価格上昇が懸念される。客の様子から販売が前年より伸びるかも疑問であり、先行きは少し悪くなる。

	自動車備品販売店（従業員）	・タイの洪水の影響でカーオーディオメーカーの生産に大きな影響を及ぼし、商品は12月出荷及び納期未定等が発生している。	
	住関連専門店（経営者）	・円高による国内産業への打撃や、TPP加盟の問題等の農業生産者の不安、節約傾向の高まりにより、買い控えが発生している。景気が回復する兆しがみられない。	
	住関連専門店（店長）	・今年は暖かい日が続いており、冬物の販売量が軒並み前年を割っている。景気自体は悪くないが、小売業にとってこういった異常気象は非常に問題で、暖冬になればなるほど売上は落ちていく。	
	高級レストラン（社長）	・10月は祭りがあったのでたまたま良かったが、この先どうなるか不透明である。	
	都市型ホテル（副支配人）	・今後もインバウンドの動きが非常に悪い。特に円高が浸透してきて、外国人の宿泊が全くないと言っていいほど少なくなっている。	
	タクシー運転手	・歓楽街の飲食店で閉鎖する店が結構出てきている。このような状況は今後も続く。	
	競輪場（職員）	・東日本大震災や福島第一原子力発電所問題の対応の遅れが影響し、来場者数は減少する。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・季節的要因により毎年、入院やキャンセルが発生し、利用者が減少する時期である。来年4月の介護報酬改定の動向が明確でなく、利用者負担の増加も想定せざるを得ない。	
	音楽教室（管理担当）	・稽古ごとは家庭の収入の中から絶対必要なものではないため、収入が減ることで一番最初に削られる部分である。教育のなかでも音楽教育というのは趣味、趣向の部分に入るため、世の中の経済が悪くなると大変厳しくなる。今後も厳しい状況が続く。	
	設計事務所（代表）	・将来の増税や住宅用の各種補助金の終了に伴い、受注が減る。	
	住宅販売会社（従業員）	・東日本大震災の復興計画も落ち着かない。また、福島第一原子力発電所の再開に目処が立っておらず、電気料金関係で燃料費が上がることや事業計画が立ちにくく、景気は低迷する。世界的にも自然災害による自動車工場の閉鎖などがあり、景気は悪くなる。	
悪くなる	スーパー（業務担当）	・TPPへの加盟が決まれば、生鮮関係を始めとして食品や日用品の価格は概ね上昇傾向となり、生産者は利幅確保のため現状よりも仕入れ原価を高く設定する。大量販売をするスーパーやディスカウントはエブリデーロープライス政策が有名無実化してしまい、プライベートブランド以外に勝負できる商品群が減少する。結果として、販売数量は更に低下する。	
	スーパー（売場担当）	・年末にかけて、いろいろな商品が例年に比べて欠品している。東日本大震災や猛暑の影響が大きい。	
	衣料品専門店（店長）	・アーケード撤去工事がいよいよ本格化するため、商店街への来街者数が減少し、売上も減少する。	
	家電量販店（店員）	・景気が良くなる材料は一切ない。TPPの問題、増税の問題、年金支給開始年齢の問題、さらに追い打ちをかけるタイの洪水等、ここ半年はかなり厳しい状況が続く。	
	乗用車販売店（代表）	・客の様子や経済状況を見る限り、良くなるような要因が見当たらない。	
企業動向関連	良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・タイの洪水の特需により引き合いが始まっており、来年半ばまで忙しくなる。
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・11月は原料不足で少し厳しいかもしれないが、12月は年末特需でメーカー向けや居酒屋、量販店の納品に大いに期待できる。1月は例年厳しいが、来年は今の現状からすると冷凍食品メーカー向けの引き合いが強くなる。前年のような鳥インフルエンザ等の外的要因がなければ良くなる。
		食料品製造業（経営者） 金融業（営業担当）	・お歳暮商戦に入り、今後2か月間は例年通り販売量が増加する。 ・建設業の中小企業は、年末から年度末にかけて受注が増えている。資金自体は動き始め、受注代金引当の運転資金借入需要もでてきている。
変わらない	農林水産業（従業者）	・食肉関係は非常に厳しい状況である。しばらくは景気が低迷した厳しい状況が続く。	
	食料品製造業（経営者）	・原料が不作気味であるが、潤沢に確保さえできれば、受注は引き続き増加傾向で推移する。	

食料品製造業（経営者）	・ 今月の業績は前年と比較して、大幅に改善されている。ただ納入先の来月以降の予約状況はいまだ芳しくなく、直前にならなければ分からないとのことである。ただ売上は徐々にではあるが、増加傾向にあり、現在のところマイナス要因は見当たらない。
家具製造業（従業員）	・ 輸入家具は円高の影響で価格を安くできるが、価格を下げてもなかなか売れない状況である。価格の問題ではなく、低迷している景気のなかで家具の購買意欲がなくなっている。優先順位の高い物から消費し、家具などのインテリア商品に回す予算は削られている。
出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・ 東日本大震災の影響を受け、各自治体でもハザードマップを作成する動きが早くなっている。しかし今から仕様確定及び予算確保となるため、ここ2～3か月の間の動きとしてはあまり変わらない。
金属製品製造業（企画担当）	・ 東日本大震災の影響により、遅れていた役所の発注が動き出している。今年度一杯この動きが続く。
電気機械器具製造業（経営者）	・ 景気そのものは非常に不透明な状況にあり、これから良くなるとか悪くなるとかはっきり答えが出るような状況ではない。非常に不透明な状況でどちらとも言い難い。
電気機械器具製造業（経営者）	・ 今製造している半導体関係は、社会に必要な物のひとつであるため動きが良い。ただ、景気状況が良くなると受注に結び付かない物も多い。大変厳しいが、じっと耐えるしか方法はない。
輸送業（総務）	・ 年末に向けて少しは好転する可能性はあるが、前年を上回る程の状況ではない。
輸送業（総務担当）	・ 当社が預かる貨物を見る限り、大きな変化はない。
通信業（職員）	・ 現時点では受注量、利益共に大きく変化する要因がない。
金融業（調査担当）	・ 企業の倒産件数は若干増えているが、心配する程でない。また、設備投資等の資金需要も特段変化がないことから、景気は変わらない。
新聞社（広告）（担当者）	・ 九州新幹線の全線開業に向けたトピックが豊富であった前年と比べると、広告出稿に結びつくトピックスに乏しい状況である。通販広告がベースになるのは変わらない。
広告代理店（従業員）	・ 今のところいい材料も悪い材料も見当たらない。
広告代理店（従業員）	・ 新聞折込枚数は前年比93%と回復の兆しが無い。特にパチンコ業界の自主規制による広告出稿の減少が大きく影響している。流通業や通信販売、不動産も不調業種に数えられ、目立った好調業種がないのが低迷の原因となっている。
経営コンサルタント	・ 現在、内向きな傾向が非常に強く、新しいことを始めようという動きがあまりみられない。それが現在の厳しい状況につながっており、今後もこの状況が続く。
経営コンサルタント（代表取締役）	・ 取引先から聞く業況見通し及び自社の受注見通し双方について、大きく変動する兆候がみられない。
やや悪くなる	
窯業・土石製品製造業（経営者）	・ 一番の需要期である9、10月が悪い状態であり、今後、年末にかけては落ち込みはまたひどくなるのではないかと心配している。市場関係も狭くなっており、また新製品、開けた市場もなかなかつかみにくい状態である。
鉄鋼業（経営者）	・ 九州地区の建設需要は、建築を中心に4月から連続して前年を上回っており、数字の上では回復しているようにみえるが、全く実感に乏しい。足元では急速な円高や世界経済の失速等、景気浮揚の材料は全くなく、ただでさえ冷え込んでいる内需に追い打ちをかける状況となっている。
一般機械器具製造業（経営者）	・ 自動車関連の東日本大震災の影響は一段落したが、タイの洪水等で風向きが変わってきた。国内生産向けの部品調達が困難になれば、国内生産はストップする。ただ、国内で部品調達に結び付けば忙しくなる可能性もある。
精密機械器具製造業（従業員）	・ 取引先からの受注状況が低調のまま、今後の生産計画も若干減少している。今後は現状より悪化することが予想される。
輸送用機械器具製造業（営業担当）	・ 得意先の生産数の減少及びタイの洪水の影響が出てくるため、悪くなる。
建設業（従業員）	・ 受注競争の激化により、売上が抑えられ、利益確保が大変厳しいなか、景気は悪化する。また民間の設備投資も景気の先行きが不透明であるため、個人消費が低迷し、景気は悪くなる。
建設業（社員）	・ 現在でも下請の見積提出に7、8社が競争している。2、3か月後には、今より厳しくなっている。10、11月に完成する工事も多い。

		輸送業（従業員）	・製紙業界では来年から大幅な人員削減が始まる。包材関係は公共事業の出資等が減っており、先行きに明るくない。食料品等についてはある程度堅調に推移するが、全体的に大幅な伸びは期待できない。
		不動産業（従業員）	・観光業の予約状況が年末にかけて低調に推移しており、今後は不透明な状況が続く。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	・取引先である半導体関連等の大手企業は、設備投資意欲があり、好調に推移している。しかし全体的には、円高の影響や景気対策の終了等から延滞等を含め失速しており、当面この動きは継続する。
	悪くなる	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・これまで国や県の失業対策の緊急雇用事業で委託業務があったが、来年度から、その事業がなくなるため、発注する業務自体が減少する可能性がある。このため、建設コンサルタントや調査会社等は受注する業務が少なくなり、経営的に厳しくなる恐れがある。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・年末年始に向かいイベント関係の動きが見込まれる。春に東日本大震災で自粛した分を秋から冬にずらして実施する企業もある。
		人材派遣会社（社員）	・年末年始の需要で既に注文がある。前年と同じような条件で注文があるため、特に悪くはない。
		人材派遣会社（社員）	・受注動向をみると、下半期は、東日本大震災によるキャンセルからの巻き返しが期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新車販売が回復傾向にあり、ディーラーの営業活動も戻りつつあることから、メーカーの求人は継続する。ただし、タイの洪水の影響が不安材料である。
		民間職業紹介機関（職員）	・先月からサービス業に加え、金融、製造業からの正社員求人が徐々にではあるが、増加傾向にある。また年末に向け派遣の需要も増加している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業との話のなかで、前向きな経営方針を立てている割合が以前より増えてきている。九州が地政学的な優位にあるからかもしれないが、採用ニーズは今後増加する。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	・小売業、飲食業等は人手を抑えて、ギリギリの陣容で店を回している。人材の確保が容易ではなくなっているため、中小企業には厳しい状況が依然続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・製造業は円高の影響を受けるが、流通やサービス業でのアルバイト求人や新聞の折込チラシの状況は良い。
		職業安定所（所長）	・求人数は9月に急増したため、先月を7%程下回る動きであるが、今後も比較的安定した求人の動きとなる。
		職業安定所（職員）	・個人消費の低迷や円高、デフレ懸念等国内外の景気が先行き不透明であるものの、好調に推移している。ただし、新規求人数の増加に歯止めがかかりつつある。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は14か月連続で前年比増加で推移しており、現在のところ改善している。ただ、円高等不安要素もあり、先行きが不透明な状況である。
		職業安定所（職員）	・欧州の信用不安、超円高基調が続いていること等から不安定要素はあるものの、当分の間は企業の採用意欲は高い傾向を示している。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数がこのところ高止まりしており、景気の先行きは不透明である。しばらくはこの傾向が続く。
		民間職業紹介機関（社員）	・年末年始を迎え、イベントの派遣需要が増加しているが、長期的な人材需要は増加していない。労働者派遣法の改正、円高の進行の行方によっては、人材需要が派遣から委託の方向へ変化する可能性がある。
やや悪くなる			
悪くなる		民間職業紹介機関（支店長）	・人材派遣契約満了後の延長がなく、欠員補充や繁忙増員もない。派遣社員採用の手控えや数人の正社員採用のみ等、労働力市場の需要は低迷している。円高や金融不安等で社会情勢もプラス材料はなく、中間決算で通期の業績は前年割れが確実となっている。今後も厳しい状況が続く。